

### ○定数改善について

#### 【文科省イメージ案】

- ・小学校1年生の学級編成の基準を40人から35人に引き下げる。
- ・市町村が地域や学校の実情に応じ、柔軟に学級を編成できる仕組みの構築  
→都道府県教委が定める学級規模の「基準」を、市町村教委が「従うべき」とされている拘束性を緩め、「標準」に改める  
→市町村教委が都道府県教委と協議し、「同意」が必要な仕組みを「届出制」にする。

#### 【全連小の意見】(概要)

- ・学校を設置する地方公共団体の教育委員会が弾力的に学級編成できる制度とすることは望ましい。
- ・一学年の人数が40人以下などの場合は、一学年を分割せず学級担任をサポートするIT教員として活用することを可能とすることは望ましい。
- ・教室不足等の場合は、40人以下学級で許容することが望ましい。
- ・都道府県教委から配置された範囲内であれば、各学校の状況に応じて小学校1年生以外の学年でも弾力的な学級編成できることが望ましい。等々

### ○「生徒指導提要」の購入と活用について

- ・平成22年3月に文科省が作成した。一冊290円(教育図書出版)ぜひ購入と活用を。
- ・小学校における生徒指導も対象とし、学校全体で生徒指導を進めるための指導体制の在り方や学校による組織的対応や学校種間の連携等について掲載している。また、児童生徒全体への指導と、個別の課題を抱える児童生徒への指導の基本的な考え方や、発達障害への理解と支援の在り方についても掲載している。

### ○新教育課程全面実施までに行うべき再点検

#### 【予想される傾向】

- ・指導内容が多くなるので、ついつい知識注入的な指導に陥りやすくなる。
- ・若手の教員ほど、発展的な扱いの所も全てやっつけてしまおうとする。(未履修に陥る)

#### 【対応策】

- ・「発展的な扱いの部分」を、どのように扱えばよいのかを、全教員で共通理解するために、研修会を実施する。
- ・教員が新しい教科書を年度内に実際に手にできるよう、教科書の「納入指示書」を3月中旬過ぎに取次書(書店)に送る。
- ・今後の教科書や教材の取扱い(必ずしもすべてを行うわけではない)を、保護者に対して説明する。

### ○言語活動の充実に関する指導事例集[小学校版]の活用について

- ・新しい小学校学習指導要領では、「各教科の指導に当たっては、児童の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること」としている。
- ・北海道では幌南、伏見、星置東、三角山、附属札幌、当麻小の事例が掲載されている。
- ・文科省では、指導事例集を作成しホームページに掲載している。活用したい。

#### [ホームページ掲載場所]

文部科学省HPトップ>教育>小学校、中学校、高等学校>新学習指導要領・生きる力>言語活動の充実について

#### [掲載アドレス]

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/gengo/1300990.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1300990.htm)